令和4年度
全校研究のまとめ

1　今年度の取り組みについて

2　各研究グループの報告

3　成果と課題

4　来年度に向けて…

１　今年度の取り組みについて

一人ひとりが力を発揮し、主体的に活動する児童生徒の育成
（１年次）
～「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に沿った授業実践をとおして～

研究主題

一人ひとりが力を発揮し、主体的に活動する児童生徒の育成

～「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に沿った授業実践をとおして～

①学校教育目標から

②昨年度までの研究から

③今年度の研究について

研究の内容・方法

一人ひとりが力を発揮し、主体的に活動する児童生徒の育成
～「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に沿った授業実践をとおして～

（１）令和４・５年度の２年研究

（２）学習指導要領の理解を深める

主体的に学習に取り組む態度

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」の涵養

育成を目指す
資質・能力の３つの柱

生きて働く
「知識・技能」の習得

知識・技能

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」の
育成

思考・判断・表現

研究の内容・方法

一人ひとりが力を発揮し、主体的に活動する児童生徒の育成
～「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に沿った授業実践をとおして～

（３）授業実践

ア　各学部（分教室）で授業実践の対象となる**教科**を設定する

イ　年間指導計画→後期の単元について
　　三つの柱に沿った目標設定、評価規準の検討

ウ　各学部（分教室）授業研究会
　　全校授業研究会の実施
　　P→D→C→A

研究の内容・方法

一人ひとりが力を発揮し、主体的に活動する児童生徒の育成
～「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に沿った授業実践をとおして～

（４）実践についてまとめる

（５）１年次の研究の成果と課題を踏まえ、２年次の実践につなげる

（６）寄宿舎のとりくみについて
主題にできるだけ沿うように、研究を推進する。

研究実践

（１）第１回全校研究会　　５月２７日（金）

（２）新学習指導要領の学習会

（３）学習指導案様式の検討

（４）全校授業研究会　　１２月２日（金）

①　題 材 名　音楽「箏（こと・そう）を弾いてみよう」
中学部２段階「A表現」イ器楽の活動
〔共通事項〕（１）ア

②　対　象　本校中学部３年　12名

③　授業実施日　11月25日（金）

④　内　容　箏の奏法による音色の違いを感じ取りながら、「さくらさくら」の数フレーズをつなげたオリジナル曲の演奏に取り組む。

２　各研究グループの報告

＜本校小学部＞

１　研究実践の対象とした教科　　音楽　　体育

２　研究の方法

単元づくりシートを活用した授業づくりの検討

⇒内容のまとまりの確認　単元の目標や評価規準の検討など

３　研究実践

（１）音楽グループ　低学団通常学級「いろいろなおとをたのしもう～あきのうた～」

低学団重複学級「クリスマスをたのしもう」

高学団４学年　「秋の音楽を楽しもう」

（２）体育グループ　低学団　「マットを中心とした運動あそび」

高学団　「マット運動をしよう」

４　学部研究のまとめ

（１）成果

　グループ研をとおして、共通理解を図りながら単元づくりを進めることができた。

・児童一人ひとりが力を発揮し、主体的に活動する姿を引き出すことができた。

・単元づくりの際に難しいなと感じるポイントを知ることができた。（実態差のある学習集団の内容のまとまりの捉え方など）

（２）課題

・学習指導要領の理解

・難しいと感じたポイントを実践をとおして解決したり、模索していくこと。

＜本校中学部＞

１　研究実践の対象とした教科　　音楽　　体育

２　研究の方法

単元づくりシートを活用した授業づくりの検討

⇒内容のまとまり　単元の目標や評価規準の検討など

３　研究実践

（１）音楽グループ　１年音楽「季節の音楽を楽しもう（冬）」

２年音楽「みんなでオーケストラの演奏をしよう」

３年音楽「箏を弾いてみよう」

（２）体育グループ　全学年保健体育「E　球技（ボッチャ）」

４　学部研究のまとめ

（1）成果

ア　研究が学習指導要領を読む良い機会となり、授業づくりをとおして以前より理解が進んだ。日ごろできなかっ た話し合いで授業を深めるきっかけとなった。

イ　資質・能力の三つの柱に沿った授業づくりを意識するようになった。

ウ　単元づくりシートの活用により、学習指導要領に沿った単元の構想が明確になった。そのため、T1以外の先生が、本時の目標に沿った個別の目標や手立て、評価規準の検討をスムーズに行うことができた。

エ　授業検討会を複数回行うことにより、授業改善や個に応じた指導の充実につながった。

オ　音楽グループで取り組んだ「授業評価シート」は、T1の細かい意図や思いの共通理解ができ、生徒の様子や先生方の気づいたこと共有しながら共に授業作りができた。

カ　授業研究会は、KJ法で行うことにより、たくさんの意見が出され、活発な協議となった。

４　学部研究のまとめ

（２）課題

ア　学習指導要領を、授業づくりに生かしていくために、専科教員が教科ごとの研修や教科ネットワークを活用し、深めていくことが必要だった。

イ　資質・能力の三つの柱に沿った授業づくりは、実態差があるため、個々に合わせた目標・評価規準の設定、学びに向かう人間性等の客観視が難しい。

ウ　授業研究会では、協議の柱を「学習内容・活動の流れ」「指導形態・教師の対応の仕方・場の設定・教材教具」にしたため、視点が授業改善中心となり、三つの柱に沿った視点での話し合いにならなかった。

エ　生徒の実態に合わせた単元目標・単元計画・評価について、吟味する時間が十分設定できなかった。

＜本校高等部＞

１　研究実践の対象とした教科　　音楽

２　研究の方法

単元づくりシートを活用した授業づくりの検討

⇒内容のまとまり　単元の目標や評価規準の検討など

３　研究実践

（１）音楽グループ　１年「　発表会をしよう　」

２年「　合奏をしよう　」

３年「　ライブをしよう　」

４　学部研究のまとめ

（１）成果

ア　学習指導要領についての概要や考え方について学ぶことができ、三観点に沿った目標や評価規準をより具体的に考える契機となった。

イ　単元の目標や評価規準を手順を踏んで立てていくことで、具体的な目標を立てることができることが分かった。

ウ　明確に三観点が整理されていることで、偏りがない指導目標や手立てを組むことができた。

エ　単元づくりシートを活用することで、単元で何をねらうのか、何を学び、何を出来るようにしたいのかをしっかりイメージすることができ、子ども達の主体的な学びにつながった。

オ　明確な目標、評価を全体で確認することで、チームとしての指導も共通したものになり、個に応じた指導の充実につながっている。

（２）課題

ア　学習指導要領を理解しきれてはいないため、生徒の実態に合わせて目標を設定していくためには、時間をかけて理解していく必要がある。

イ　今回研究してきたことを、普段の指導の中に取り入れるようにする。

ウ　生徒の実態を教師間で確認したり内容を照らし合わせたりする時間をもつなど、教師間の連携が必要である。

＜遠野分教室小学部＞

１　研究実践の対象とした教科　　音楽

２　研究の方法

単元づくりシートを活用した授業づくりの検討

授業に向けた学習指導案の検討と作成

授業の振り返りと評価

３　研究実践

（１）１学団　　「秋の音楽発表会をしよう」

（２）３～６学団「秋の歌を楽しもう」

４　学部研究のまとめ

（１）成果

・学習指導要領について改めて学ぶ機会となり、理解を深めることができた。
・職員間の共通理解を図って授業を行ったことで、児童に何を学ばせたいのか明確になった。
・同じ教科で系統的に授業を見ることができ、学びにつながった。

（２） 課題

・児童の実態に幅があるため、目標や評価規準を設定するのが難しかった。
・より授業者が評価しやすいように具体性や個別性がある評価規準を設定できると良かった。
・児童の実態と学習指導要領の内容のまとまり、教材の良さや特徴を照らし合わせて目標を設定することの難しさを感じた。
・普段から学習指導要領を熟読して、教員間で指導内容を共通理解しながら授業を進めていきたい。

＜遠野分教室中学部＞

１　研究実践の対象とした教科　　音楽

２　研究の方法

単元づくりシートを活用した授業づくりの検討

⇒内容のまとまり　単元の目標や評価規準の検討など

授業の振り返りや評価

３　研究実践

音楽「そりすべりを演奏しよう」

４　学部研究のまとめ

（１）成果

・学習指導要領について理解を深めることができた。

・単元で身に付けさせたい力について生徒の目標に迫ることができた。

・３つの柱に沿った授業づくりを進めることで、実態に応じた指導や評価、授業改善につながり良かった。

（２）課題

・生徒に身に付けてほしい能力についてイメージしたことを指導案の中で文章表現することが難しかった。

・学習指導要領について理解を深めることができたが、単元や授業に落とし込むためにさらに深く理解していきたい。

＜北上みなみ分教室小学部＞

１　研究実践の対象とした教科　　体育

２　研究の方法

・児童一人一人の実態や目指す姿の共通理解
・単元の目標や評価規準の検討など
・ビデオ録画での振り返りや検証

３　研究実践

単元名　「第２回　みなキラオリンピックをしよう」
内　容　４競技(徒競走・ハードル・サッカー・リレー)を、
オリンピックに見立てて行う

４　学部研究のまとめ

（１）成果→三つの柱、三観点の意識

・「いっぱい動いて楽しかった。」ではなく、目標を達成するために、課題解決に向けてどう運動するか、振り返りで何ができて何ができなかったか、次に向けての課題は何かを職員全員で共通理解を図ることができた。

（２）課題→高い専門性をもつ

・学習指導要領の理解は深まったが、すべてを理解したとは言い難い。

・「各教科等を合わせた指導」が多い教育課程ではあるが、すべては「各教科」がベースになっている。
教師一人一人の専門性を高めていきたい。

＜北上みなみ分教室中学部＞

１　研究実践の対象とした教科　　数学

２　研究の方法（抜粋）

〇算数・数学の測定領域の特別支援学校と小学校の学習指導要領・教科書の比較検討

⇒学習内容の系統性や連続性を踏まえた単元計画の立案と「三つの柱」に沿った評価規準の設定

〇「いわての授業づくり３つの視点」に基づく授業改善

⇒見通し・振り返りを重視して

３　研究実践

数学「いもNo.1グランプリ～重さを比べよう～」

４　学部研究のまとめ

（１）成果

・特別支援学校と小学校の学習指導要領・教科書を比較検討したことで、学習内容の系統性連続性を踏まえたうえで単元計画の立案をすることができた。また、単元の指導目標及び内容を「三つの柱」に沿って整理し、一人ひとりの評価規準を明らかにする過程で、単元の終わりまでにどんな力をつけたいか、単元で学んだことを生かしている姿は具体的にどんな姿かを検討・共有する機会となった。

・測定領域において学んだ内容を生かす場面を生活単元学習や作業学習で設定した。生単では、今回学んだ内容を「おもてなしのゼリーを作る」という生活場面で生かすことができており、作業でもおよその見当を付けて測定する姿がみられている。

・「いわての授業づくり3つの視点」に基づき授業改善を行った。国語や保健体育では、「ふりかえりシート」を作成し、単元の始めに生徒と単元の進め方や目標を共有した。授業の中で振り返りにつながるような途中の評価、フィードバック、キーワード化を行ったことで、４月当初に比べて、「わかったこと・できたこと・難しかったこと」を自分の言葉で表現できるようになってきている。

（２）課題

・算数・数学は学習内容の系統性が強く、既習事項への積み重ねで新しい内容を学ぶこととなる。該当領域について、個々の生徒がどのように学んできたのか、現在のレディネスはどのくらいであるのかを把握することで、生徒自身が本時の課題解決のための見通しをもつことができる展開を工夫していく。

・生徒の学びの状況に応じて、指導のステップを調整しながら進める授業力の向上は課題。

・「いわての授業づくり3つの視点」に基づき、課題やまとめ、振り返りの記載方法をそろえる。

・実態差のある生徒の集団学習においても、評価規準を明確にして指導計画の立案、実践をし、改善を繰り返すことで個別学習でなくても、個々の力を伸ばすことができると考える。

・振り返りでは、学習過程を振り返ることにはまだ難しさがある。「こうすればうまくいく」という方法を自覚し、表現できるよう、意図的・計画的にフィードバックしていくとともに、学ぶ意義や自分の成長を自覚し、次への意欲に結び付けられるようにしていく。

＜寄宿舎＞

1　寄宿舎研究について

研究副題　「やってみたい、楽しい、できる」から主体的な姿へと意欲を育む

2　研究の方法

研究内容	具体的内容	方法
実態把握や評価のための視点の統一	講師による研修会	・研修会の実施 ・アンケートの実施
主体的姿を育む支援方法を探る	指導すべき課題の整理と指導目標の設定	・グループ協議 ・全体協議
ＰＤＣＡサイクルの活用	日常的業務への取り組み	・グループ協議
主体的姿へとつなげる支援の継承	一人ひとりの特性を支援に活かせる様式の検討	・グループ協議 ・全体協議

資料　実態把握シート　新型

実態把握 新　記入日（　　）

1　障がいの実態、発達や関心の実態把握　対象舎生（高等部〇年　氏名　）　入舎（　〇年目）

項目	長所	課題
健康の保持	・**不調を周囲に伝えることができる。** ・**体調を崩すことが少ない。** ・**薬を嫌がる様子ない。**	・基本的生活習慣の乱れがある。 ・便秘、肩こり、肌荒れなど生活習慣の乱れによる不調が見られる。 ・好きな活動を優先してしまい、行動が遅くなる。 ・服薬時間が遅れる。 ・不調の要因を考えることが少ない。 ・
心理的安定	・**趣味がある。** ・**会話をすることで気持ちを安定させる傾向がある。** ・**勝ち負けにこだわる。** ・**ぬいぐるみを好み大事にし、時に話しかけるなどしている。**	・イライラすると、衝動的に物へ当たる、他害等が見られ行動がコントロールできない。
人間関係育成	・**会話のできる友人を求める傾向にあり、相手に話題を振ることができるようになった。** ・**負けず嫌いで、優位に立っていたいところがある。** ・**仕事や係の活動は真面目に取り組む。** ・**質問することができる。**	・人の気持ちや状況を斟酌かるのが不得手で、一方的に話し割り込むことが多々ある。
環境把握	・**時間の理解はでいている。** ・**仕事に対し「きちんとしたい」という姿勢を持ち、積極的に意見を提案、発表することができる。** ・**他人の活動や持ち物に関心を示す。**	・何かに夢中になると時間を忘れてしまいルーズになってしまう。 ・刺激の整理ができず、優先すべき行動が後回しになってしまう。 ・課題や目標を達成するまでの過程を具体的に考えることが少ないため、安易に了承し取り組みを始め達成できずに失敗を繰り返している。 ・失敗の要因を振り返る方法を学んでいないため行動を改善できない。
身体の動き	・**体を動かすのは好きだ。**	・力の加減が難しく、柔軟性には課題がある。
コミュニケーション	・**人と関わることが好き。** ・	・言葉の遣い方、意味の捉えがあいまいで不適切なところがある。 ・おしゃべりしたい気持ちが強く、一方的で自分本位になってしまう。

舎・資料２

実態把握 新　記入日（　　）

1－1　願いと課題から、目指す姿の抽出

①　本人の願い	規則正しい生活をする。
②　保護者の願い	規則正しい生活をする。
③　中心的課題	・優先すべき行動が後回しになり、時間が守れない。（健、人、コ）

目指す姿	・時間を守って行動できる。

その他（補足情報）

2　目標設定　（三本柱：知識技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力を参照）

今年度の達成目標	予定を確認し参加することができる。

考えられる**具体的指導内容**	**どんな場面**で（いつ、どこで）、配慮事項
（自）下校から就寝までの予定を確かめる。 （内）内容を考えて予定を組み立てる。 （興）自分の好きな予定を組み込みながら作成していく。	（いつ）下校後、自習時間。 （どこで）自室で。 （配）ホワイトボードのスケジュール表を利用する。 （配）決まった日課は事前に作成し、新たな予定は付箋等を利用する。

その他

舎・資料２

資料　PDCAシート　　新型

あおば棟　PDCA　新

<取り組み期間>１２月１２日（月）～１２月２３日（金）

P 目標（短期）

下校から就寝前までの予定の、全てを自ら立てられる。

D 実践

自ら取り組もうとする姿	内容や役割が分かる	興味関心を持つ・やりがい・考える
<手立て> (1) 予定表に自分で札を貼り予定を立てられるよう、前日貼った札は下校までに取っておく。 (2) 札にない予定も自由に組み込めるよう、付箋を準備しておく。	<手立て> (1) 「活動」「余暇」の札について、掛かる時間を考え書き込むことを約束し、ペンを準備する。 (2) 必要があれば、札の内容について説明を加え、助言する。 (3) 札の見直しを行い、行事など「いま」必要な予定や、複数の内容が分かりやすいように示す。	<手立て> (1) 予定を立てる、振り返りをする時間を下校後と自習時間に設定する。 (2) 本人の計画について、話を聞く事や助言を行う時間を持つ。 (3) 本人の立てた予定表を写真に収め、毎日記録する。
<実践後の姿> (1) 行事があり、思うように時間が取れない中でも、予定表に札を貼る姿が見られた。 (2) 貼り出した予定以外に思い出した活動を自ら付箋に書きボードに貼り実行した。 (3) できなかった予定をホワイトボードに大きな文字で書き込み自ら注意喚起(12/15 翌日の準備できていなかった件) (4) 宿題や課題は先延ばし傾向で短絡的。	<実践後の姿> (1) 執行部の活動を優先し、自分で立てていた予定を行えなかったが優先順位に間違いはないと話していた。 (2) 翌日の準備が実行されず本人もできていないことに気づき札をやれる時間に移動していた。	<実践後の姿> (1) 振り返りの中で内容が複数書かれた札を、「水筒洗い」の横に貼り、活用しようという姿が見られた。 (2) 余暇と執行部活動に大事な印をつけていたことが多かった。

目指す段階

Ⅰ（下校から就寝前までの予定で、職員から提示されたものを半分程度まで立てられる）

Ⅱ（下校から就寝前までの予定の、半分以上を自ら立てられる）

Ⅲ（下校から就寝前までの予定の、全てを自ら立てられる）

舎・資料４

あおば棟　PDCA　新

C 実践後にみられた変化や成長

＜ 成 果 ＞

	自ら取り組もうとする姿	内容や役割が分かる	興味関心を持つ・やりがい・考える
舎生	(1) 予定表の作成を通じ、下校後の予定を確認することができていた。	(1) 予定に優先順位をつけて、未実行でも納得することができた。	(1) 余暇や執行部活動に重点を置いているようだ。
職員		(1) いくつかの意味を持つものは、伝わりにくい。具体的に示す必要があること。それらをまとめて提示すること。	(1) 本人が大切にしたいことに、気づけた。

＜ 課 題 ＞

	自ら取り組もうとする姿	内容や役割が分かる	興味関心を持つ・やりがい・考える
舎生		(1) 当初設定していた時間にできる限り行おうという意識が薄い。 (2) 予定表の札が集まりすぎると、予定を完了できないことがあった。	
職員		(1) 後回しにすると、本人自身が苦しくなるという見通しを持たせられるように伝えていく必要がある。 (2) 札（予定）が同じ時間帯に集中しすぎた場合の対応。	

A 工夫を要するところ

(1) 優先順位と、札の種類、色分けについて本人が絡めて考えられているかを確認できるようにする。

(2) 後回しにならない、予定の組み方の伝え方。

職員のまとめ（有効だった点、反省など）

・ C（評価）の実態からA（改善）をどうするのか等の、展開を系統的に確認することが大切。また、スケジュールを自分で立てることに焦点をあてやってきたが、背景や本人の立てたスケジュールの計画倒れなどの実態から短期目標の変更も必要だったのではないか。

舎・資料４

３　研究実践

①　講師による研修会

②　グループ協議

４　学部研究のまとめ

＜成果＞

- 実態把握の重要性を再確認できた。
- 細やかな観察や話し合いを重ねることが、主体性につなげられることを実感できた。
- PDCAを通じ、本人理解を深め具体的手立てを考えることが共通認識や学び合いにつながった。

＜課題＞

- 研究推進のために話し合う時間が、十分確保できない。
- 支援内容の評価が不十分なため、主体性を育む支援の検討が不足した。

３　成果と課題

一人ひとりが力を発揮し、主体的に活動する児童生徒の育成
（１年次）
～「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に沿った授業実践をとおして～

＜成果＞

（１）学習指導要領の理解が進み、授業づくりに生かすことができた。

（２）研究授業に向けた授業検討等をとおして、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を職員間で共有し、指導や支援の手立てを検討したり、授業改善したりすることができた。

＜課題＞

（１）児童生徒の実態差に応じた目標と評価規準を設定することが難しかった。

（２）すべての授業で「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に沿った授業づくりを意識していくためには、さらに学習指導要領を理解し、実践していく必要がある。

（３）カリキュラム・マネジメントの視点から、学んだこと（インプット）を生かす（アウトプット）学習活動を検討し、計画、実践していくことが必要である。

４　来年度に向けて

〇研究主題を引き継ぎ、各研究グループの研究を進める。

〇学習指導要領をさらに理解し、授業づくりにつなげるために、研修会を設定する。

４　来年度に向けて

〇各研究グループで研究対象となる授業を合わせた指導の中から設定し、研究を通して目指す児童生徒の姿に迫る実践をしていく。

〇研究授業の動画データや学習指導案を保存するフォルダを活用し、他の研究グループの学習の様子をお互いに参考にできるように整えていく。また、授業づくりの参考となる資料等を必要に応じて紹介していく。